



「光星の名 甲子園で」

八戸市庁訪問 ナインが抱負

八戸市は27日、第100回全国高校野球選手権に本県代表として出場する八戸学院光星高校ナインを応援しようと、市

庁本館の外壁に「めざせ全国制覇」と書かれた看板を設置した。同日は同校ナインが市庁を訪れ、設置された看板の前に甲子園での健闘を誓った。長南佳洋主将ら県大会でベンチ入りした20選手

八戸市庁本館に設置された看板の前で、記念写真に納まる八戸学院光星高校ナインら

と仲井宗基監督、小坂貫志部長、中村良寛教頭、同校甲子園出場協賛会の安井基悦会長の計24人が市庁を訪問。本館正面入り口の上方に設置された縦0・9メートル、横9メートルの大きな看板を笑顔で見入った。主戦の福山優希投手は「身が引き締まる思い。応援してくれる方々のためにも頑張りたい」と意気込みを語った。

これに先だち行われた県大会優勝報告では出張中の小林眞市長に代わり、田名部政一副市長が応対。仲井監督は「一昨年は東邦高校に悔しい負け方をしたので借りを返したい」と、長南主将は「3季連続で準優勝したときのように、再び甲子園で光星高校と八戸市の名前をとどろかせたい」と決意を新たにしていた。

ナインらは同日、東奥日報八戸支社も訪れ、村林徹支社長に甲子園での

活躍を誓った。

(高松拓輝)